

至福の年越しそば

江戸ソバリエ・ルシック マダム節子
(日本橋そばの會会長・江戸ソバリエ講師)

「お母さんは多分リア充だわ。好い趣味を持っているね」

12月、広島県尾道市で全麵協四段位の認定会が催され、私はスタッフとしてお手伝いに行くことになりました。丁度いい機会だからと今年4月から広島に暮らしている娘に認定会に来ないか誘うと「分かった、行くから」と嬉しい返事が直ぐにありました。

広島は東京からはさすがに遠く、娘と会うのは半年ぶりでしたが顔つきも明るく元気そうなのでまずは一安心をしました。

後日、娘は電話をよこし、認定会会場を動き回っている私の姿を見て何を思ったのか、たわいのない話の中でリア充の話しをしました。「リアジュウ？」初めて聞く言葉に戸惑うと「若い人が使う言葉、充実した日常を過ごせる人の事を言うのよ」と説明をしてくれました。

世の中の流行りとは無縁な生活をしているので知らない言葉でしたが「そう、充実ね...」

母親にとって娘はやはり可愛い、しかも長女はしっかり者、そしていつも辛口、その娘に云われたせいか、俄然幸せ感がじわ〜と染み出てきました。

そば打ちも、気が付いたら15年、その間にはもちろん会の仲間、そして地方の大勢の方たちと出会い、お付き合いをさせていただいています。またそばが取り持ち、海外まで旅行をする機会を得てきました。

やはり私は幸せ者です。娘の言葉のおかげで、今年は心を込めて年越しそばが打てそうな気がしてきました。

さて、暮れも押し迫り12月28日、狭い我が家に長女夫婦2人、次女家族4人そして夫と私、8人が集まることになりました。日頃は夫と2人の食卓なので簡素な食事になりがちですが、さあ今夜は張り切らなければと和洋折衷の献立を考えました。これでお腹いっぱいになっちゃうかな？でもそばは別腹だから念のため打っておこう。丁度手元に大野産のそば粉がある、この粉で絶品そばを打とう！生粉で打ちたいけどここはのど越しの良い二八で.....。すぐに打ち始めると夢のようなそば粉はキリリと角の立った1.5mm幅のそばになりました。

夜7時過ぎから始まった食事は気持が良いほど大皿の料理がみるみるうちになくなっていきました。ビールから始まりワイン、日本酒まで何でもござれの若者たち、ようやくお腹も収まりかけたころにはもう夜も更け、孫たちももう寝る時間はとうに過ぎて、おとなしくなってきました。

もうお腹はいっぱいかな？私は恐るおそるみんなに「縁起物だから一口年越しそば食べる？」と訊きました。すると「はい、食べます」と威勢の良い返事が返ってきました。急いで大鍋に湯を沸かしそばを茹で、大策にぼっちもりにしてテーブルへ。一策目、「お母さん、さすがだわ 美味しい！」と長女、「私が茹でると茹ですぎちゃったりしてこうはいかないのよね。」と次女。上気している身体に冷たい氷のそばはスルスルと入っていくようです。大策を3回出しました。皆の満足そうな顔に私はホッとすると共に大勢で過ごす年越しの幸せがいっぱいに広がっていきました。

ふっと我に返り、さあいい加減にして少し片づけようと食卓の大策に手をかけた時、「あっ！お義母さん、ちょっと待って」とその策に残った数本のそばを一本残らず自分のそば猪口に入れ、クククッと食べ切った義理の息子。「ああ美味しかった、ごちそうさまでした。」と、ニッコリしていました。